

令和6年度 学習分析事業 改善計画シート 三原市立小泉小学校

【別紙】

1 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均(全国を50とする)

		2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	前年度結果 偏差値平均		51.4	53.3	55	54.5	53.55
	本年度結果 偏差値平均	51.6	52.9	52.7	53.2	56	53.28
算数	前年度結果 偏差値平均		52.2	55.5	57.6	57.7	55.75
	本年度結果 偏差値平均	52.7	59.4	50.4	58.2	58.1	55.76
理科	前年度結果 偏差値平均				53.5	57.4	55.45
	本年度結果 偏差値平均			55.2	55.7	57.8	56.23
全体	前年度結果 偏差値平均		51.8	54.4	55.3	56.5	54.5
	本年度結果 偏差値平均	52.15	53.54	53.58	55.5	56.86	54.93

②全国学力・学習状況調査 正答率平均(第6学年対象)

教科	国語	算数
前年度結果 (対県比)	57 (82)	51 (80)
本年度結果 (対県比)	73 (105)	76 (118)

2 令和5年度について

①調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて) ●国語科の主な課題 2年生…説明文・文章に合う図(11%) 3年生…説明文・共通点の考察(0%) 4年生…物語文・詳細読み取り(11%) 5年生… 6年生…聞き取り・役割の理解(28%) ●算数科の主な課題 2年生…形作り(26%) 3年生…20分前の時刻(36%) 4年生…球の切り口の形(47%) 5年生…折れ線グラフ・変化(45%) 6年生…複合立体の体積(22%) ●理科の主な課題 4年生…種の観察 ホウセンカ(68%) 5年生…秋のヘチマの様子(36%) 6年生…いちばん強い電磁石(72%)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語科の主な課題 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうか。(11.1%) ・原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうか。(50.0%) ●算数科の主な課題 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えの求め方を式や言葉を用いて記述する。(27.8%) ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。(5.6%)
---	---

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標（何を、どの程度達成するか）				達成のための具体的取組（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
	国語	算数	理科	①NRTの誤答分析を全職員で行い、各学年の重点課題を把握し、改善計画を立案し、関係する単元をシラバスで確認する。 ②夏季休業期間を活用し、各学年の重点課題に対しての具体的な授業展開や指導の工夫について複数学年で協議し、協議したことを基に2学期以降の授業を行う。 ③夏季休業中に、重点課題となる領域に関する復習プリントを作成する。 ④ドリルタイムにアシストシートを活用し、重点領域以外についても対策を行う。 ⑤令和4年度に作成したNRT類似テストを使い、本番同様に実施・解説まで行う。	①7月 ②7月～8月(協議) ③7月～8月 ④9月～3月末 ⑤実施・分析 1回目 1月～2月 2回目 3月～4月	○重点課題の単元のテストまたは、同等の評価テスト 目標 全学年平均…80%以上 結果 国語…88.6% 算数…87.4% ○NRT類似テスト(学習済の箇所までを100%換算) 目標 1回目…80%以上 2回目…85%以上 結果 国語68.5% 算数72.2% 理科67.5% 理科78.3% ◎1回目は、問題の理解に時間がかかり、問題を全て解くことができない児童もいたが、テスト後に解説、課題箇所の補習等を行ったことで、2回目の数値が向上した。しかし、目標を達成することができなかった。また、全体的な数値は向上したが、課題の大きい児童の数値はあまり変化がなかった。
2年生	読むこと	図形				
3年生	読むこと	測定・データの活用				
4年生	読むこと	図形	昆虫と植物			
5年生	読むこと	データの活用	天気・雨水と地面・月と星			
6年生	話すこと・聞くこと	図形	電磁石・振り子の運動			
【学級・学習集団づくり】 ○学習規律を徹底し、児童が安心して授業を受けることができる学習環境を整備する。 ○各児童が意欲的・自主的に学級運営に参画し、自分たちの力で学級・学校を良くしていくとする学級集団づくりを行う。 ○友達と良好な関係を築いていける学級集団を目指す。				①各学年の担任が、ソーシャルスキルトレーニングを朝の帯タイムに定期的に実施し、友達関係づくりの基礎力を養う。 ②児童が企画、運営を行うお楽しみ会を各学期末に行い、児童の自己存在感・自己有用感を向上させる。取組内容について交流する時間を設定する。 ③学習規律を各学級で徹底し、最後までやり切らせる。 ④「ほかほか言葉」及び「いいところ見つけ」のがんばり週間を設け、お互いの良いところを見つめる活動を行う。 ⑤各学級の問題を担任者会等の職員会議で共有し、学校全体で問題に取り組み、定期的に状況の確認を行っている。	①1週間に1度 ②毎学期末 ③毎日 ④毎学期 ⑤毎月の会議及び1週間に一度を目途に隣の学年同士で確認	○QU2回目実施時、学級生活満足群の数値が、1回目の数値+5%以上、または、全学年で1回目以上の数値となることを目指す。 学級生活満足群1回目…63.5% 2回目…76.6% 各学年の数値は、4学年が前回の数値を上回り、満足度が97%向上した学年もあった。2学年が前回と同じ数値となったが、数値が低下した学年はなかった。

3 令和6年度について

①調査から明らかになった課題

【学力調査について】 (NRTをうけて) ●国語…2年生「説明文・文章に合う図」(11%)、3年生「話し合い・提案」(19%)、4年生「説明文・要旨の読み取り」(20%)、5年生「手紙を書く・文末表現」(6%)、6年生「物語文・場面読み取り」(18%) ●算数…2年生「場面からの減法の計算」(22%)、3年生「式の読み取り・乗法」(44%)、4年生「□を用いた式」(20%)5年生「分数－分数＋分数」(39%)、6年生「小数を分数で表す」(36%) ●理科…4年生「年度の分割と重さ」(50%)、5年生「加熱と部分的な対流」(22%)、6年生「河川の運搬作用」(45%) (全国学力・学習状況調査をうけて) ●国語…目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか。(54.4%) 漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか。「きょうぎ」(27.3%) ●算数…道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる。(27.3%) 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうか。(45.5%)
--

②課題改善に向けた学校組織全体の重点取組等

重点取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
【学力向上について】 ・まとまった文章を書くこと ・四則計算の確実な定着 ・情報と情報との関連付け	①全学年全教科等でのR80の実施(必須) ②下線の効果的な活用 ③帯タイムを活用したアシストシートの実施(課題箇所を中心に) ④帯タイム中の個別支援(学力C層の児童に対して)	○国語科・算数科のたしかめテストにおいて、平均80%以上 7月 全校平均 国語科…知識81.7 思考88 算数科…知識88.3 思考81.4 12月 全校平均 国語科…知識85.1 思考84.7 算数科…知識86.6 思考76.6 ○NRT類似テスト(学習済の箇所までを100%換算) 目標 1回目(1月初旬)…80%以上 2回目(2月下旬)…85%以上
【学級・学習集団づくりについて】 ・児童生徒が主体の絆づくり ・学習規律・学習環境の整備 ・安心できる居場所づくり	①児童同士がお互いのがんばりを認められる機会を作る ②学習中のルールを明確にし、掲示するなど可視化する。 ③児童への適切な支援の仕方を校内で検討、実施する。	○HyperQU2回目(2学期) 1次支援70%以上